

学習院大学法学部政治学科

平成30年10月10日（水）

やさしい社会を明石から

～ “あたりまえ” を変える～

いずみ

泉

ふさ ほ

房穂

明石市長・弁護士・社会福祉士

自己紹介

泉 房穂(いずみ ふさほ)

- 1963年 明石生まれ
- 弁護士
- 社会福祉士
- 元衆議院議員
超党派での議員立法制定に奔走
- 元NHKディレクター
- 2011年より明石市長（現在2期目）
- 柔道3段、手話検定2級、明石タコ検定初代達人



今日の講義の流れ

一 私のこども時代・学生時代

二 就職後の三つの世界

- 1 マスコミ（NHKとテレビ朝日）
- 2 専門職（弁護士と社会福祉士）
- 3 政治家（国会議員と市長）

三 明石のまちづくり

四 みなさんへのメッセージ

一 私のこども時代・学生時代

【こども時代】障害を持って生まれた弟

《こどものころからの変わらぬ思い》

私には階段が必要だ。なぜなら私は鳥のように飛べないからだ。

「お金がないから」「スペースがないから」という理由で階段は作れません、と言われたら困ってしまう。

車椅子で移動する人にはスロープやエレベーターが必要だ。なぜなら歩けないからだ。

階段がないビルや駅はないが、スロープやエレベーターは、お金やスペースがないからという理由が通り、それで“あたりまえ”とされてしまっている。

その“あたりまえ”そのものを変えていきたい。

そう思って、私は政治家を志した。

一 私のこども時代・学生時代

【学生時代】市民活動と放浪の旅

▷ 地元の小学校・中学校・県立高校から猛勉強の末、東大へ

▷ **市民活動**に明け暮れた大学時代

▷ そして、**放浪の旅**へ



二 就職後の三つの世界

1 マスコミ（NHKとテレビ朝日）

▷大学卒業後、初めての就職先はNHK
ディレクターとして番組制作に携わる

▷その後、縁あってテレビ朝日へ

「朝まで生テレビ！」と

「ニュースステーション」を担当



テレビ朝日ホームページより

二 就職後の三つの世界

2 専門職（**弁護士**と**社会福祉士**）

▷明石市内に法律事務所を開設し、
庶民派**弁護士**として活動

司法

と

福祉

どちらも必要

▷その後、**社会福祉士**の資格を取得
手話の勉強も継続中

二 就職後の三つの世界

3 政治家（国会議員と市長）

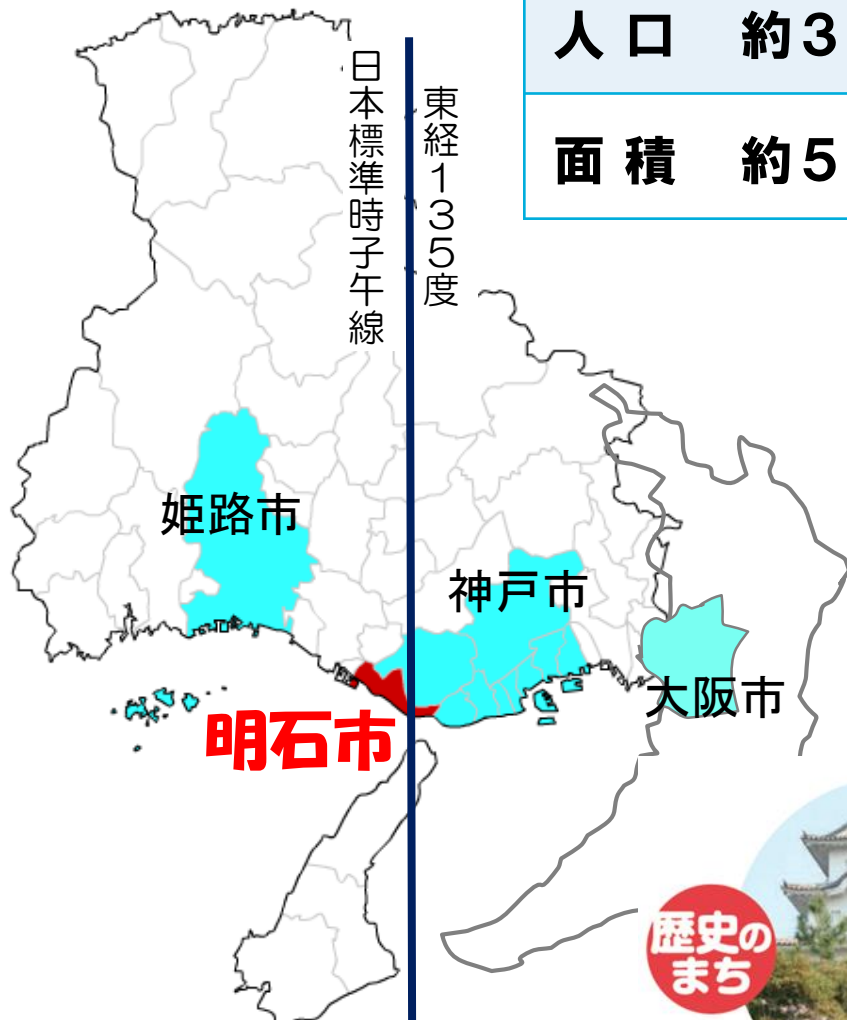
▷故 石井紘基 衆議院議員 との出会いが
きっかけとなり、**国会議員の道へ**

▷わずか**69票差**で選挙に勝ち、
こどもの頃からなると決めていた**市長に**



三 明石のまちづくり

明石市の概要



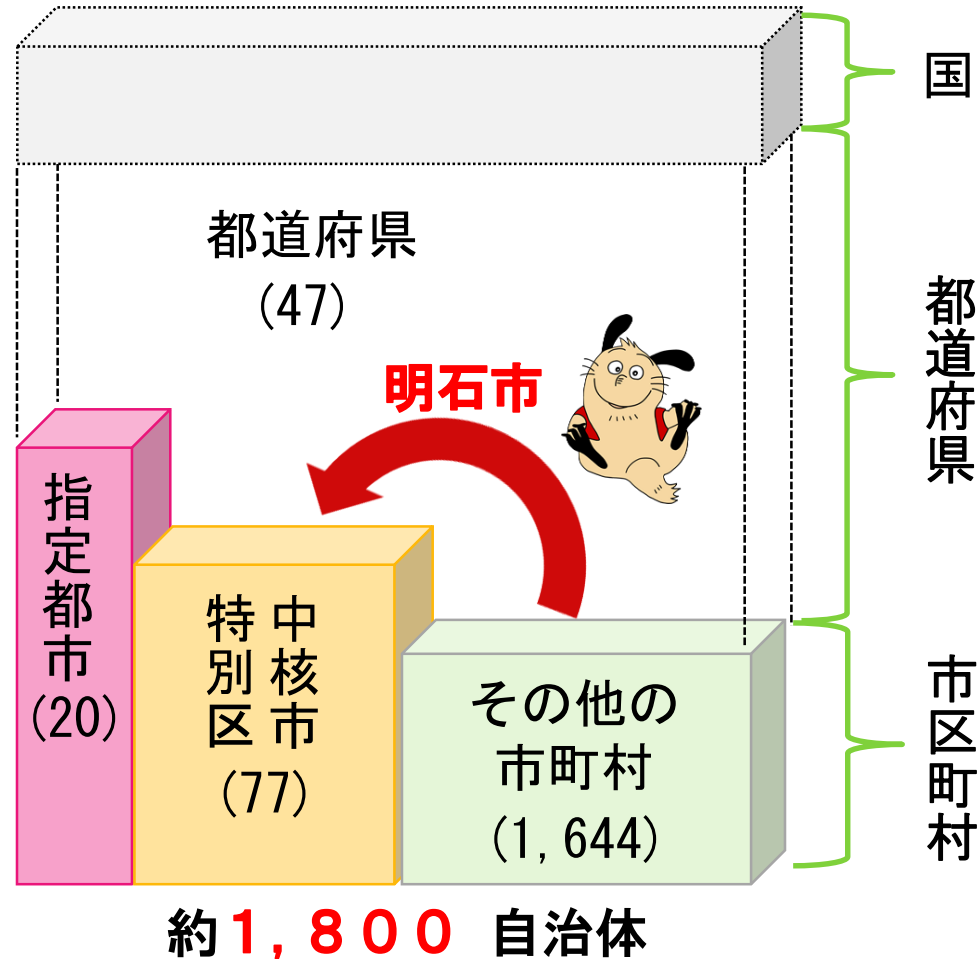
人口 約30万人

面積 約50km²



平成30年4月 中核市へ移行！

《現在の都市構造》



今、明石が熱い！

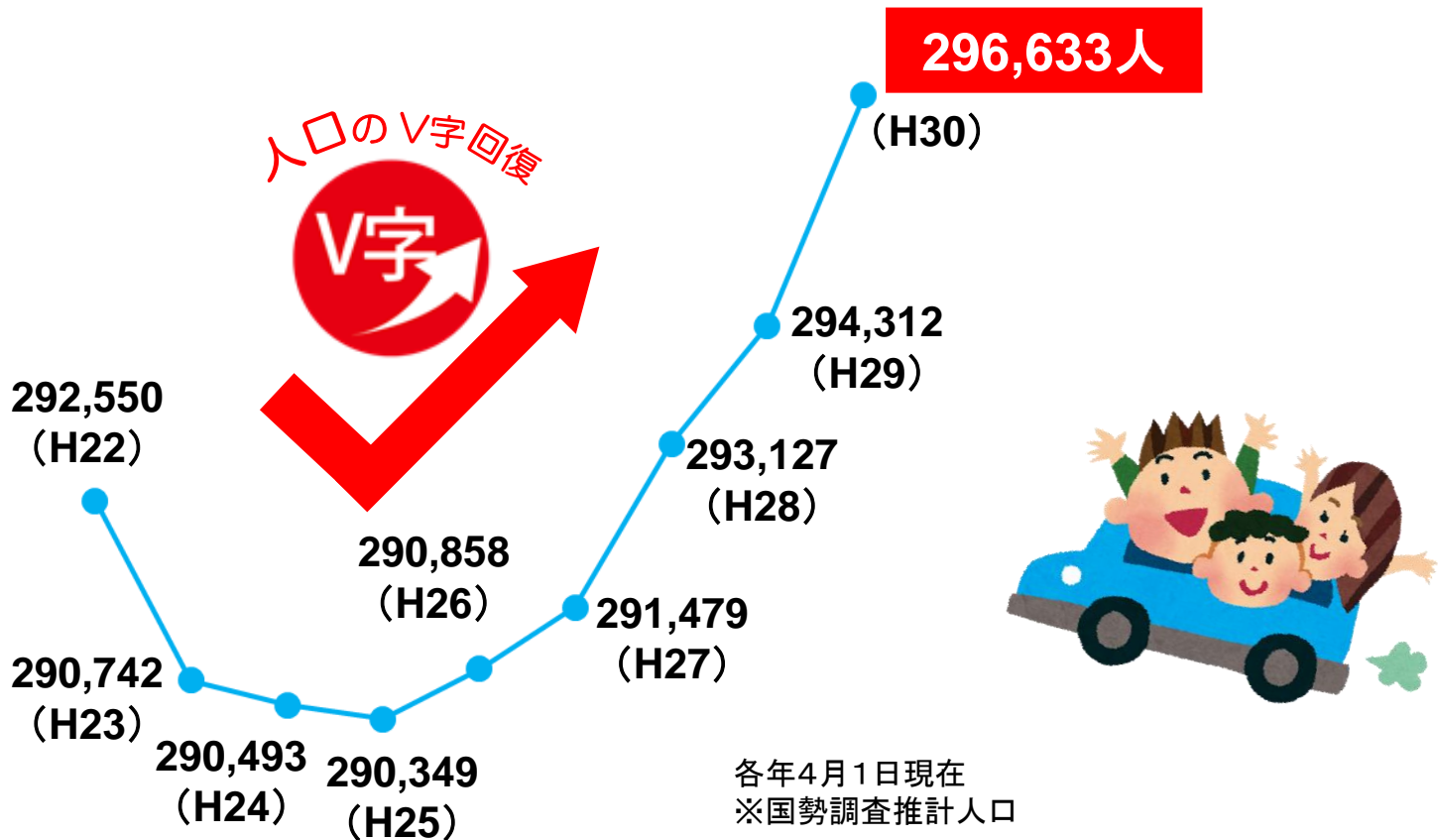
5つのV字回復



- 1 **来る人も** ⇒ 交流人口4割増
- 2 **住む人も** ⇒ 定住人口5年連続増
- 3 **赤ちゃんも** ⇒ 出生数3年連続増
- 4 **税収も** ⇒ 市税収入6年連続増
- 5 **まちの笑顔も** ⇒ 地域経済の活性化

明石市の人口増の特徴

人口減少から一転して **5年連続増加**
平成29年8月には、**過去最高人口を突破**



大都市からの転入増が特徴 (神戸市や姫路市から大量流入)

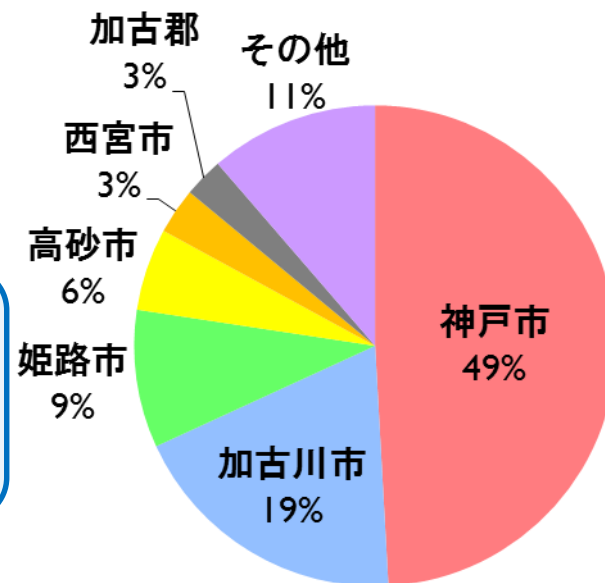
(単位：人)

明石市	神戸市	加古川市	姫路市	西宮市	尼崎市
+2,380	-3,470	-1,390	-1,512	-563	-416

(兵庫県内の主な市
：平成29年1～12月の人口動態)

TOPICS

※平成29年に毎月連続で人口が増え続けたのは、県内で**明石市だけ**
(明石市でもH5以来、24年ぶり)

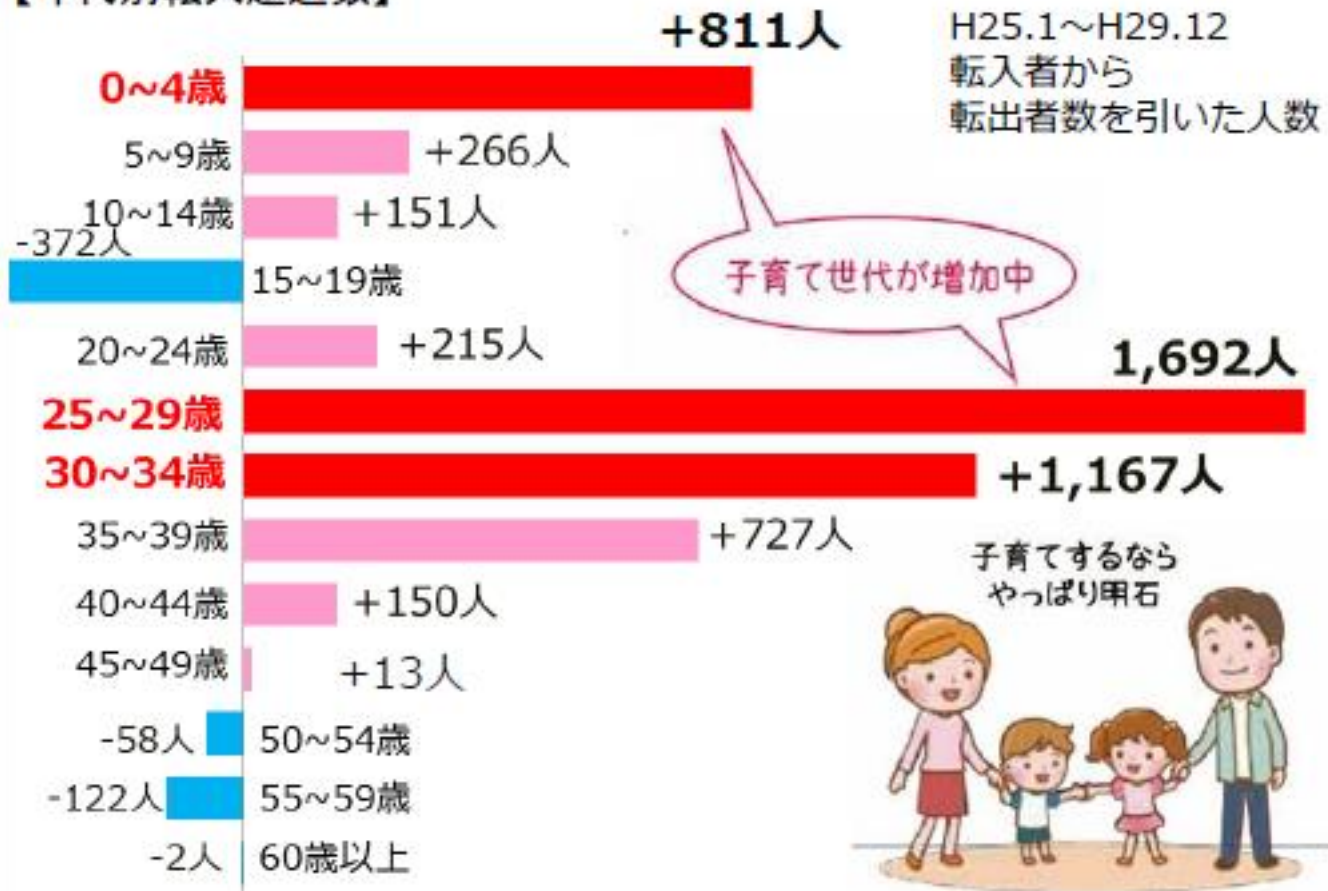


(明石市への転入者の割合：平成29年)

しかも、子育て層ばかり！

ターゲットとする教育熱心な中間層に光を当てる施策が人口増加へ

【年代別転入超過数】

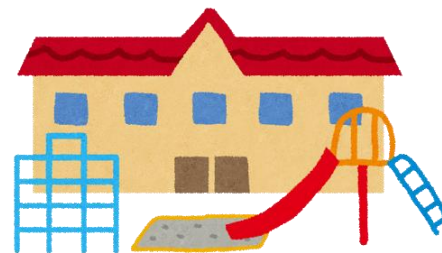


子育て中間層の転入の理由

⇒ “こども” への予算シフト

(×企業誘致、×大学誘致)

- 1 経済的負担の大幅な軽減
- 2 子育て環境の充実化
- 3 セーフティネットの確立



1 経済的負担の大幅な軽減

Point 

3つの“無料化”

所得制限なし！

- ① 保育料 → 第2子以降は完全無料
- ② 医療費 → 中学生まで完全無料
- ③ 遊び場 → 親子ともに利用料無料

関西初



明石駅前再開発ビル内
親子交流スペース「ハレハレ」

2 子育て環境の充実化

- ① 保育所整備→毎年1,000人の受入増
- ② 少人数学級→30人学級の段階的实施
(小1から)
- ③ 本のまち→図書館を明石駅前に新設



3 セーフティネットの確立

あれもこれも、できることはすべてやる

- ① 離婚前後のこども支援 **全国初**
(面会交流・養育費確保など)
- ② 児童扶養手当の毎月支給 **全国初**
- ③ 無戸籍者支援 **全国初**
- ④ あかし版こども食堂 (全28小学校区に開設) **全国初**
- ⑤ 里親100%プロジェクト **全国初**
- ⑥ 児童相談所の設置 **法改正後初**

明石のまちづくりの基本理念

1 **すべての子どもたちを**

誰一人として見捨てない ⇔ × 貧困家庭限定

2 **まちのみんなで**

行政や地域や市民みんな ⇔ × 親だけに責任

3 **一人ひとりに寄り添って**

こども目線 ⇔ × 行政目線や親目線

4 **本気で応援**

あれもこれも全部やる ⇔ × 予算の範囲内
(ワンストップ、チームアプローチ、アウトリーチ)

市長としての思い

《7年前、市長選に立候補したときからの変わらぬ思い》

まちをつくるのは“ひと”

これからの明石のまちをつくるのは、

今の明石のこどもたち

こどもたちに借金を残すような税金の無駄遣いをやめ

頑張るこどもたちをまち全体で応援する

そんな明石をつくっていききたい

それが明石の未来につながると信じている

(市長選 法定選挙ビラに掲載した一文より)

明石市のこども総合支援

虐待防止・社会的養育の充実

- 児童相談所の設置 全国で9年ぶり
国基準の2倍の職員を配置
- あかし里親100%プロジェクト 全国初
- 児童養護施設等と連携した養育支援

早期の気づきと支援

妊娠期から子どもを支援

- 妊婦全数面接
- 乳幼児全数面接 子どもの健康を
100%確認
- あかし版こども食堂 全28小学校区に開設

子育てを応援

所得制限なし

所得制限なし
中核市規模で
は全国初

入場料無料の
駅前施設

- 中学生までの医療費無料化
- 第2子以降の保育料無料化
- 大型遊具を備えた

「あかしこども広場」

学びを応援

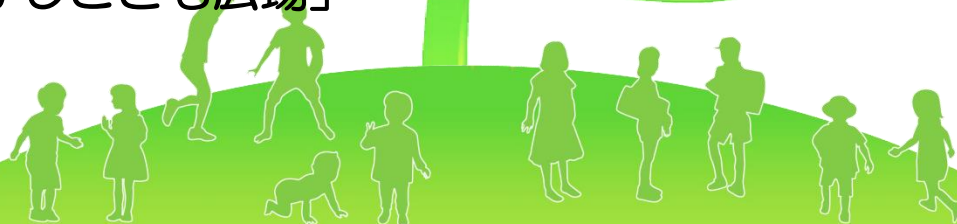
アウトリーチ支援
24時間相談ダイヤルなど

- 中学校給食の全校実施
- 30人学級の導入 まずは小学校1年生から
- 本のまちの推進

駅前に図書館新設
ブックスタート&
ブックセカンド(県内初)

寄り添う支援

- 離婚前後の養育支援 全国初
- 児童扶養手当の実質毎月支給 全国初
- 無戸籍者支援 全国初



自治体経営

<7つのポイント>

- 1 “我が町” を知り
- 2 “ビジョン” をもち
- 3 “戦略” をえがき
- 4 “ひと” をあつめ
- 5 “カネ” をあつめ
- 6 “時代” を先取りしながら
- 7 “市民ニーズ” に応え続ける

1 “我が町” を知り

明石市の特性

ヒューマン・ジャストサイズ・シティ

市民に身近で 自立経営可能な まち

人口 約30万人

面積 約50km²

電車で37分！

神戸、姫路、大阪の近隣
交通の利便性が高い！

家賃相場も周辺都市より
安い！

魅力的なベッドタウン



明石市の特性

① 地理的特性

(都市近郊、海沿い、狭い市域)

② 機能的特性

(城下町、ベッドタウン、神戸生活圏)

③ イメージ

(魚のまち、気候温暖、のびのび)

2 “ビジョン” をもち

どんなまちにするか . . .

目指すは、ミニ神戸ではなく、

家族で暮らしたいまち

○暮らす

×学ぶ

○育てる

×働く

×遊ぶ

目標の明確化と共有化



地域創生総合戦略（トリプルスリー）

明石市が今後5年間で目指す

3 明石のトリプルスリー

もっと住みたい・住み続けたいまちへ



本気で目指す、30万人



子育てしやすいまち



貸し出し冊数300万冊

3 “戦略” をえがき

- ① こどもを核としたまちづくり
(未来)



- ② セーフティネットの充実
(安心)



市民が選んだ明石の「たからもの」

市民が選んだ明石の「たからもの」総合ランキング	
	1位 玉子焼 (明石焼)
	2位 天文科学館
	3位 明石城 (明石公園)
	4位 時のまち
	5位 子育てしやすいまち
	6位 タコ (マダコ)
	7位 イカナゴ
	8位 タイ (マダイ)
	9位 過ごしやすい気候
	10位 魚の棚商店街

※広報あかし平成29年1月1日号企画「みんなで選ぼう！明石のたからもの」アンケート結果より

タコやタイをおさえて
「子育てしやすいまち」が
5位にランクイン！！

4 “ひと” をあつめ

- ① 専門職の活用
(弁護士・保健師など)
- ② 人事のあり方の見直し
(適時 適材 適所)
- ③ 職員の意識改革
(市民目線)



5 “カネ” をあつめ

- ① 予算シフト
(やりくりは可能)
- ② 中間層の転入促進
(納税者を呼び込む)
- ③ 税金へのこだわり
(市民からの預かりもの)



6 “時代” を先取りしながら

全国初の “あたりまえ” の施策

- 離婚時のこども支援
- 無戸籍児への総合支援
- 障害者配慮条例（合理的配慮への助成）
- 犯罪被害者への賠償金立替制度
- 再犯防止・更生支援モデル事業
- 外来種（アカミミガメ）対策

…などなど

全国初再犯防止条例

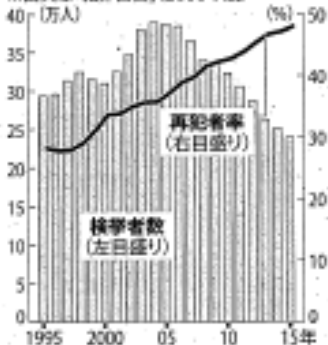
明石市、就労や福祉支援

来年度にも

元受刑者らの社会復帰を支援し、再犯防止につなげる。兵庫県明石市は全国初の「再犯防止条例」を制定する方針を固めた。認知症の高齢者や知的障害者が福祉の支援を受けたいまま、万引

止推進法は、元受刑者の社会復帰を支援する法律を国や自治体に求めているが、法務省は「自治体が条例を作る動きは聞いたことがない」としている。明石市は16年度から、刑事事件を起した認知症の疑いのある高齢者や知的障害者への支援を始めた。刑務所を出所した人だけでなく、逮捕後に不起訴や執行猶予となった人も対象にした先進的な取り組み。市が職員と

刑罰法の検挙者数と再犯者率
※出典は「犯罪白書」(2016年版)



して採用した弁護士が法務省の出向職員から人が窓口となり、検察や刑務所、社会福祉協議会などと連携し、今年8月までに32人を担当

「再犯者」は15年は48%で、20年前の1・7倍に増加。刑務所を出所した人の約8割が5年以内に再入所していた。再犯までの期間は高齢になるほど短く、仕事や身寄りがないことが社会復帰を妨げていると指摘されている。

国は09年以降、「地域生活定着支援センター」を全国に設置し、元受刑者の更生支援を進めているが、不起訴や執行猶予のケースは

両親離婚の子どもも養育支援事業

明石市モデル法制化へ

超党派議連

超党派の国会議員で

婦で考えてもらうよう

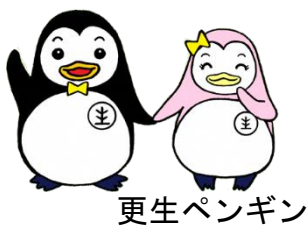
つくる「親子断絶防止議連」の事務局長、馳浩衆院議員(自民)は22日、両親が離婚した未成年者の権利を守る明石市の事業を参考に新法制定を目指す方針を示した。離婚後の親子の面会交流や養育費の分担について夫婦間で取り決め、離婚届に添付するよう促す規定を盛り込む。遅くとも来年の通常国会で成

立させたい考え。馳氏は「親子の面会交流を実現する全国ネットワーク」(東京)が開いたシンポジウムで「明石の取り組みをナショナルスタンダードにしたい」と述べた。明石市は2014年度から、親の離婚や別居に伴う子どもの養育支援事業を始めた。面会交流や養育費の取り決めを記す書類を離婚届と一緒に配るなど夫

にしては、馳氏は骨子案として離婚届提出時の規定に加え、夫婦の取り決めが円滑にまとまるよう国や自治体が支援する「ことなどを挙げた。シンポに参加した泉房穂・明石市長は「明石の取り組みを導入する自治体が増え始めており、法制化で一気広がる」と期待を寄せた。(段 貴則)

取り組みを強化し、市民に情報への理解を求めるとも検討する。歳暮義夫・市更生支援担当課長は「支援を継続的にい、犯罪の少ない町づくりにつなげたい」と話す。

16年版の「犯罪白書」によると、検挙者に占める再犯者の割合(再



更生ペンギン

損賠金を立て替え

明石市、自治体で全国初

犯罪被害者支援条例改正案を可決



可決した条例改正案について感想を述べる被害者団体のメンバー—明石市役所で

した全国犯罪被害者の会（あすの会）代表幹事代行、林良平さん（60）は「こうした条例が全国の標準になることを強く望む」と期待した。同会副代表幹事で、神戸連続児童殺傷事件で次男を亡くした士師守さん（57）も「立て替え金以外でも着実に進んだ条例」と評価した。【駒崎秀樹】

明石市議会は20日、犯罪被害者やその遺族を支援する条例の改正案を、賛成多数で可決した。加害者が支払うべき損害賠償金を支援金として立て替え払いできることなどを盛り込んでおり、来年4月1日に施行する。市によると、自治体を立て替え金制度は全国で初という。

例を改正した。故意の犯罪で被害者が死亡したり重度の障害を負った場合、訴訟などで確定した賠償金のうち上限300万円までを市が立て替え払いできる。立て替え金は市が加害者に請求。また、介護や一時保育などの費用も補助する。

条例改正では市は、被害者支援団体など意見交換を続けてきた。可決後に市役所で会見



犯罪被害者等支援
シンボルマーク
ギョつとちゃん

明石市が今月1日に施行した「被害者に対する配慮を促進し誰かが安心して暮らせる共生のまちづくり条例」に続き、市の助成を受けて段階解消の簡易スロープや点字メニューなど取り組んだ民間事業者が、14日時点で自営する事業者、助成件数10件に上ることが明らかになった。市が記者会見で公表した。他にも事業者11件が申請中で、泉陽穂市長は「具体的な形で、また、優遇が見えてきた。行政として責任を持って後押しを続けたい」と話す。【駒崎秀樹】

14日現在で実施されたのは点字メニュー6件、簡易スロープ1件、筆談ボード3件。条例制定に向けた検討委に参加した民間事業者を通じて広がったという。

同市本町の洋菓子店「みるみる本店」では、簡易スロープ、点字メニュー、筆談ボードを併せて導入した。入り口に8センチ

見える優しさ次々と

明石市「障害者配慮条例」施行から半月



車いすでも出入りしやすいよう、市の助成を受けて導入した簡易スロープ
＝明石市本町のくるみや本店で

助成制度は、市民や事業者らが過重な負担を理由に障害者への「配慮」を断念しないよう応援する目的で設けた。飲食店の点字メニューなどコミュニケーションツール製作費（上限5万円）▽筆談ボードや折りたたみ式簡易スロープなど物販購入費（同10万円）▽簡易スロープや手すりなど工事施工費（同20万円）といった補助を受ける

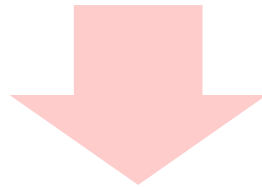
簡易スロープ設置など

段差があり、スロープは障害者だけでなく、ベビーカーを運んだ母親からも好評だという。取締役の森本真一郎さん（68）は「後回しにしてしまうことが多いテーマだが、市の助成を受けて市の方で二階に考え、短い期間で導入できた。地元へ根付いた店づくりを心掛けているので、障害者の方も安心してもらえるきっかけになれば」と話す。

助成で民間業者後押し

7 “市民ニーズ” に応え続ける

× “ノイジィ・マイノリティ”
のニーズ



○ “サイレント・マジョリティ”
のニーズ

- ①こどもを核としたまちづくり（未来）
- ②セーフティネットの充実（安心）

まちの好循環システムの確立へ

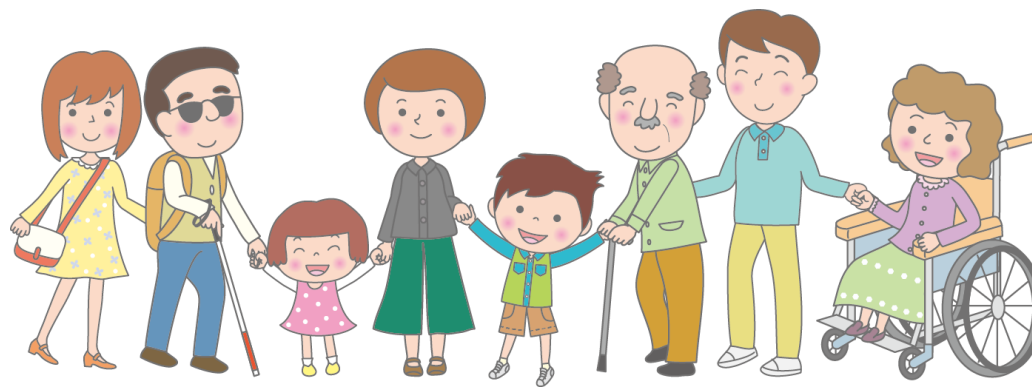


法政大学
湯浅 教授



これぞ “アカシノミクス”

“やさしい社会” を明石から



“やさしい社会” とは・・・

お互いに 助けあい 支えあう

“あたりまえ” の社会

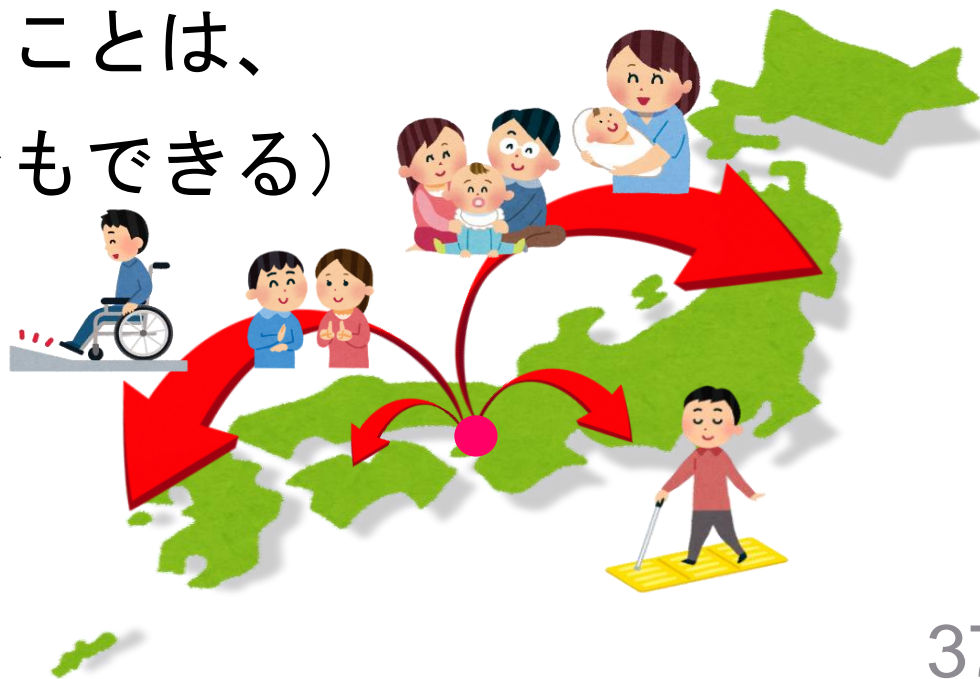
“明石から” とは・・・

① 国を待つことなく明石から

(市民により近い基礎自治体から始める)

② 明石から全国に

(明石市でできることは、
ほかの自治体でもできる)



四 みなさんへのメッセージ

これからの人生で身に付けてほしいこと

① **やさしさ**

▷ 想像力、真摯に聞く姿勢

② **かしこさ**

▷ 洞察力、本質を見抜く力

③ **ほんの少しの強さ**

▷ 責任感、諦めない勇気